

# 住吉南古墳について

住吉南古墳は、中区住吉四丁目の三方原台地上に築かれた古墳である。以前は、住吉墓苑南古墳と呼ばれ、前方部が失われた前方後円墳と考えられていた。

1998年に行われた墳丘外周の発掘調査の結果、前方部の痕跡は見つからず、直径28mの円墳であることが判明した。2002年に行われた調査では、古墳の北側に幅4mの周溝がめぐることが明らかになっている。

2014年には、初めて墳丘上の発掘調査が行われ、表面に葺石が無いことが確認された。墳丘表面から土師器の壺の破片が出土したが、埴輪は過去の調査を含めて全く出土していないことから、当初から存在しなかったと考えられる。

住吉南古墳は、浜松市内で7番目の規模の大型円墳であり、古墳時代中期前半(5世紀)に築造された首長の墓と考えられる。三方原台地の先端には、かつて多数の古墳が存在したが、市街地化の中でその多くが失われている。住吉南古墳は、古墳時代中期の大型円墳であるとともに、市街地の中で姿を留める数少ない古墳として貴重な存在である。



住吉南古墳の墳丘表面



発掘された周溝

